様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23 年 5 月　24 日現在

機関番号：13201
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2007～2010
課題番号：19520601
研究課題名（和文）　近世中央アジア東部における歴史的聖者伝の系統研究
研究課題名（英文）　Study on Historical Hagiography Manuscripts of Eastern Part of Central Asia in Early Modern Times
研究代表者
澤田　稔（SAWADA MINORU）
富山大学・人文学部・教授
研究者番号：20215916

研究成果の概要（和文）：中央アジア東部で 18 世紀後半以降に作成されたムハンマド・サーディク・カーシュガリー著『ホージャガーン伝』（別名『アズィーザーン伝』）の A 系統（長編）の写本と B 系統（短編）の写本の校訂作業を進めた。その結果、同じ人物や出来事の記述において文章表現の異なる箇所が多く見られること、どちらか一方の系統の写本にしか記述されていない内容があること、全体構成において大きな相違があることなどが確実に判明した。

研究成果の概要（英文）：*Tadhkira-i Khwajagan* or *Tadhkira-i 'Azizan*, a historical hagiography authored by Muhammad Sadiq Kashghari around the latter half of the eighteen century in Eastern part of Central Asia, has many manuscripts far more than twenty. I have collated two groups of manuscripts, i.e. A Group (long version) and B Group (short version). As a result, it becomes clear that rhetorically different phrases are much found between two groups, and the contents and constitutions are different from each other.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	700,000	210,000	910,000
２００８年度	500,000	150,000	650,000
２００９年度	500,000	150,000	650,000
２０１０年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総　計	2200,000	660,000	2860,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：中央アジア　イスラーム　聖者

１．研究開始当初の背景

本研究は、中央アジア東部（東トルキスタン、新疆）において 16 世紀以降ペルシア語やトルコ語（チャガタイ語）で作成された歴史文献（年代記と聖者伝が２大ジャンル）のなかで極めて独自性の高い性格と内容を有する『ホージャガーン伝』（原名「タズキラ・イ・ホージャガーン」、または『アズィーザーン伝』原名「タズキラ・イ・アズィーザーン」。１写本では 457 ページ）という書物についての文献学的研究である。

『ホージャガーン伝』（『アズィーザーン伝』）はモンゴル系ジュンガル王国期および清朝征服期に関する一次史料として重要視されてきたにもかかわらず、歴史研究者の利用には、いまだ障碍がある。それは、本書の原本が発見されないで、多数の写本の形でしか現存せず、しかも校訂テキストが作成され

ていないからである。

当該写本は西欧・ロシア・ウズベキスタン・中国の図書館・研究所に散在しており、その数は、筆者（澤田）が調べた限りでも20をはるかに越える。しかも、これらの写本の内容は同一ではなく、従来のソ連邦の研究者たちの学説では、写本は一次本と見なされる長編と二次本と見なされる短編の２系統に分類されている。しかしその一次本と二次本という判定には再検討の余地がある。筆者は、写本の系統は３つある（A、B、C に分類）という問題提起を 2004 年の国際学会で発表している。

すでに筆者は『ホージャガーン伝』(『アズィーザーン伝』）についての国内外の研究史を論文にまとめ、未解明の課題を指摘している。しかしながら、写本の数多さや系統の違いがネックとなり、『ホージャガーン伝』はその作成年代はおろか、正式の書名さえ確定されていない。

なお、『ホージャガーン伝』(『アズィーザーン伝』）の研究は、古く英国の R. B. Shaw の内容紹介（Shaw, R.B., Elias, N., “The History of the Khojas of Eastern-Turkistan summarised from the Tazkira-i-Khwajagan of Muhammad Sadiq Kashghari,” by Robert Barkley Shaw, Edited with Introduction and Notes by N. Elias. Supplement to the *Journal of the Asiatic Society of Bengal*, vol. 66 part 1, 1897, pp. 1-6, 1-67.）やドイツの M. Hartmann による抄訳（Hartmann, M., “Ein Heiligenstaat im Islam: Das Ende der Caghataiden und die Herrschaft der Chogas in Kasgarien,” *Der Islamische Orient*. Berlin, 1905）によって始められ、その後、ソ連邦の学者によって研究は受け継がれたものの、部分的に内容を翻訳紹介するという作業に留まっていた。

遺憾ながら、それらの研究は研究者の手元や各国内に所蔵されている写本をそれぞれ個別に利用しており、写本間の異同に充分な注意が払われていない。例えば、R. B. Shaw は British Library 所蔵の Or.5338 写本を利用したが、その写本は途中で切れている B 系統の不完全な写本である。また、M. Hartmann は Staatsbibliothek Preussischer Kulturbesitz, Berlin 所蔵の Ms.or.fol.3292, Ms.or. 4-1313 の２写本を用いたが、筆者がマイクロフィルムで点検したところ、それは A 系統と C 系統の写本であった。このように、現在我々が『ホージャガーン伝』(『アズィーザーン伝』）を利用するには、部分的な翻訳や抄訳に頼るか、世界中に散在する写本を逐一参照するしか方法がないのである。

２．研究の目的

従来の『ホージャガーン伝』(『アズィーザーン伝』）に関する研究は個々の研究者が各国内に所蔵されている写本をそれぞれ個別に利用しており、写本間の異同に充分な注意が払われていない。

本研究はこのような研究状況の不備を改善するために校訂テキスト作成の基本作業を遂行し、３系統の写本間の異同の差異を明確にすることをめざす。

さらに、実質的な内容を歴史学的見地から位置づける作業もおこなう必要がある。それは本書の歴史的価値を定めるためのみならず、諸写本間における語句の異同の当否を検討する際に重要な手がかりを与えるからである。

３．研究の方法

『ホージャガーン伝』(『アズィーザーン伝』）の写本群は、筆者の事例研究にもとづく作業仮説では３系統に分かれる。すなわち、A 系統（長編）、B 系統（短編）、C 系統である。

それらのなかで歴史記事として信憑性がより高いと推測される B 系統の写本から校訂と翻訳の作業に入り、その次に A 系統の写本について同様の作業をはたした上で、両系統の差異を分析する。C 系統の写本は事例研究では最も歴史学的情報として劣る面があることから、その作業は最後とする。

以上の作業を通じて、３系統の写本間の相違点と共通点を析出し、それらの系統のうちどの系統の写本がオリジナルな原本に一番近いのかという根本問題の考察に不可欠な材料を確実に集積したい。

研究作業に使用した主要な写本は以下のとおりである。

A 系統の写本:Bodleian Library, MS. Turk d. 20; Sankt-Peterburgskii filial Instituta Vostokovwdeniya Rossiiskoi Akademii nauk, MS. D191; Sankt-Peterburgskii filial Instituta Vostokovwdeniya Rossiiskoi Akademii nauk, MS. B776

B 系統の写本：British Library, MS. Or. 5338; British Library, MS. Or. 9600; British Library, MS. Or. 9662; Institut de France, MS. ms. 3357

C 系統の写本：Bodleian Library, MS. Ind. Inst. Turk 3; Staatsbibliotek Preissischer Kulturbesitz, Orientabteilung, MS. or. fol. 3292

４．研究成果

（１）『ホージャガーン伝』(『アズィーザーン伝』）の推定３系統の写本群のうち、B 系統に属すると考えられる写本の校合作業（アラビア文字テキストのトランスクリプション）を遂行した。その結果、当初 B 系統に属する

と判断し底本としていた１写本（Institut de France, MS. ms. 3357）は、テキストの途中（51 葉）から A 系統の写本のテキストと同じになることが判明した。写本の書写人が最初は B 系統の写本を用い、途中から A 系統の写本に変更して筆写したものと思われる。これは、系統の異なる『ホージャガーン伝』写本の流布状況を考える上で興味深い事例となる。

（２）B 系統の写本の内容から始まり、途中から A 系統の写本の内容に変わる Institut de France, MS. ms. 3357 写本の全テキストのトランスクリプションと日本語訳をおこなった。

（３）B 系統に属すると考えられる別の１写本（British Library, MS. Or. 9662）は、同系統の他の写本とは字句の異同や省略箇所が多く見られる。しかしながら、B 系統の諸写本の成立過程を推測する上で重要な面も含んでいるので、トランスクリプションをおこなった。

（４）A 系統と B 系統の写本間には語句の異同が多く見られる。A 系統は修辞上凝っており、修飾する言葉が多い。それのみならず、両系統の写本間には、叙述する記事の有無という重大な内容上の相違がある。たとえば、カルマク族に関して、B 系統の写本に見られ A 系統の写本にない記事がある。その反対に、いわゆるナクシュバンディー系カシュガル・ホージャ家の宗教的権威の継承を伝える精神的系譜（道統）について、B 系統の写本はその具体的人物名を挙げていないが、A 系統の写本は詳しい神学的説明を添え、人物間の継承関係を記している。

（４）『ホージャガーン伝』（『アズィーザーン伝』）の記すカシュガル・ホージャ家の血統の系譜が歴史学的にどれほどの価値を有するかを検証するために、ほかの聖者伝や史書が伝える血統との比較考察をおこなった。その結果、先祖マフドゥーミ・アーザム以前の系譜には 2 種類あること、『ホージャガーン伝』は最初中央アジア西部で作成されたと考えられる系譜を採録していることが判明した。この事例研究で分かるように、『ホージャガーン伝』の内容のすべてがオリジナルである訳ではない。とりわけ、A 系統の写本はそのような傾向が強いと思われるが、他の聖者伝との比較を通じてさらなる検証を必要とする。

（５）全体的な構成が A 系統と B 系統の写本間で異なっている。とくに、カシュガル・ホージャ家の血統の系譜を記述する箇所が大きく異なる。B 系統の写本において血統は序文につづく部分で記述されているが、A 系統と C 系統の写本では、序文のすぐあとに系譜の記述はなく、あとの本文のなかで取り上げられている。すなわち、カシュガル・ホージャ家のホージャ・ダーニヤールの逝去を記し、その長男ホージャ・ジャハーンの特性を賞賛する叙述の過程において先祖の血統が記されているのである。そしてその後に、B 系統の写本に見られない具体的な精神的系譜が記述されている。

（６）本書の序文の内容も、B 系統の写本と A・C 系統の写本間では相違がある。B 系統の写本の序文には、「タズキラ・イ・ホージャガーン」という書名と思われる語句があるけれども、さらに「タスキラ・アルジャハーン」という書名と作成年（ヒジュラ暦 1182 年＝西暦 1768/69 年）が示されている（ただし、Or. 9662 写本では 1192 年、B770 写本では 1251 年）。この場合、「タズキラ・イ・ホージャガーン」は「ホージャたちの伝記」という単なる普通名詞であると考えるのが適切であろう。A・C 系統の写本では、B 系統の写本に見える「タズキラ・イ・ホージャガーン」という語句が「タズキラ・イ・アズィーザーン」になっており、そのほかの書名とおぼしき語句や作成年代は示されていない。

（７）事例研究によれば、C 系統の写本の内容と全体構成は A 系統の写本に近い。これは A 系統の写本の内容は B 系統の写本よりも後に書かれたという筆者の予想を裏付けることになる可能性がある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計２件）

(1) SAWADA Minoru, “Pilgrimage to Sacred Places in Taklamakan Desert: Mausoleums of Imams in Khotan Province,” International Conference: The Roads of Pilgrimages between Central Asia and Hijaz, Organaized by Bahtiyor BABADJANOV, Bayram BALCI, Alexandre PAPAS & Thierry ZARCONE, October 3, 2007, Tashkent, Uzbekistan

(2) SAWADA Minoru, “The Genealogy of Makhdūm-i A ‘ zam and the Cultural Traditions of Mazars,” International Workshop, Studies on Mazar Cultures of Silk Road, August 27, 2008, Academic

Exchange Center (Honghu Hotel), Xinjiang University, China

〔図書〕(計３件)
（１）ジャリーロフ・アマンベク、河原弥生、澤田稔、新免康、堀直（著）『『ターリーヒ・ラシーディー』テュルク語訳附編の研究』NIHU プログラム「イスラーム地域研究」東京大学拠点、2008 年、総 372＋171 ページ

（２）澤田稔（著）、濱下武監修、川村朋貴・小林功・中井精一編『日本海総合研究プロジェクト研究報告３ 海域世界のネットワークと重層性』(第４章 16世紀前後の中央アジアにおける通商ネットワーク（55-67ページ）を執筆担当)、桂書房、2008年、総269ページ

（３）SAWADA Minoru, “Three Groups of *Tadhkira-i khwājagān*: Viewed from the Chapter on Khāja Āfāq,” James A. MILLWARD, SHINMEN Yasushi, SUGAWARA Jun (editors), *Toyo Bunko Research Library 12. Studies on Xinjiang Historical Sources in 17-20th Centuries*, The Toyo Bunko, 2010, 317 pp. (pp. 9-30)

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
澤田　稔（SAWADA MINORU）
富山大学・人文学部・教授
研究者番号：20215916

(2)研究分担者
なし（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし（　　）

研究者番号：